【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成17年5月12日(2005.5.12)

【公表番号】特表2001-500557(P2001-500557A)
【公表日】平成13年1月16日(2001.1.16)
【出願番号】特願平10-514259
【国際特許分類第７版】
　Ｃ１１Ｄ　17/06
　Ｃ１１Ｄ　11/00
【ＦＩ】
　Ｃ１１Ｄ　17/06
　Ｃ１１Ｄ　11/00

【手続補正書】
【提出日】平成16年9月7日(2004.9.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手続補正書

平成１６年　９月　７日

特許庁長官殿

１．　事件の表示

平成１０年特許願第５１４２５９号

２．　補正をする者

氏名（名称）　ヘンケル・コマンディットゲゼルシャフト・アウフ・アクチエン

３．　代理人

住所　〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見１丁目３番７号　ＩＭＰビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261　　ＦＡＸ 06-6949-0361

氏名　弁理士　(6214) 青山　葆

４．　補正対象書類名　明細書および請求の範囲

５．　補正対象項目名　明細書および請求の範囲

特許庁
16.9.9
審査官

６．補正の内容

Ｉ．明細書中、次の箇所を補正します。

（１）第２６頁第１４行、「分離を考慮して」とあるを、「それ自体」と訂正。

（２）第２６頁第２０行、「アミノ酸の脂肪酸誘導体」とあるを、「脂肪酸誘導体としたアミノ酸」と訂正。

（３）第３２頁第８行、「相対分子量２０００～３００００の」とあるを、「分子量が２０００～３００００と比較的高い」と訂正。

（４）第３２頁第１７行、「０７０３０」とあるを、「０７３０３」と訂正。

（５）第３５頁下から第６行および同頁下から第５行、「置換」の後に、「した」を挿入。

（６）第３６頁第１２行、「グルカミド」とあるを、「グルカミン」と訂正。

（７）第４１頁第１２～１３行、「水を加えると凝集または塊形成し、」とあるを、「凝集または塊形成し、水を加えると」と訂正。

（８）第４４頁、表１の枠内の第２行、

「

噴霧乾燥顆粒１	５２	６０	６４	５５

」

とあるを、

「

噴霧乾燥顆粒１	５７	６０	６４	５５

」

と訂正。

Ⅱ．請求の範囲を別紙の通り補正します。

以上

(別紙)

請求の範囲

１．洗剤配合物および／または原料を接合すると同時に、または後で造形することによって、嵩密度が６００ｇ／ｌを越える粒状洗剤または該洗剤用の配合物もしくは処理原料を製造する方法であって、室温で１バールの圧力下に固体であり、融点または軟化点が４５℃以上である各原料および／または配合物と、場合により、４５℃未満で１バールの圧力下に液体であるノニオン性界面活性剤１０重量%までとを含有する固体プレミックスを最初に調製し、４５℃以上の温度で圧縮力を適用して粒子に変換し、その粒子を場合により更に加工または配合することを含んで成り、

・プレミックスは実質的に水不含有であり、

・プレミックスは、アニオン性界面活性剤を１種またはそれ以上、並びに４５℃未満で１バールの圧力下には固体であるが加工条件下にはメルトとして存在する原料または配合物を少なくとも１種含有し、該メルトは、洗剤製造時には滑剤として、および固体の洗剤配合物または原料の接着剤として作用し、洗剤を水性液体に溶解する際には崩壊作用を示す、多機能の水溶性結合剤として機能する

方法。

２．プレミックスにおいて、総水含量は１５重量%以下であり、水は遊離形態では存在せず、ゼオライトおよび／またはシリケートに結合していない水の含量は、好ましくは１０重量%以下、とりわけ７重量%未満である請求項１記載の方法。

３．プレミックスは、固体成分に加えて、４５℃未満／１バールで液体のノニオン性界面活性剤、とりわけ洗剤中に通常用いられるアルコキシル化アルコール、例えばアルコール１モル当たり、とりわけエチレンオキシド単位を平均３～７有する、炭素数８～２０の脂肪アルコールまたはオキソアルコールを、１０重量%まで含有し、該液体ノニオン性界面活性剤と崩壊作用を有する結合剤とは、好ましくは別々にプレミックスに加える請求項１または２記載の方法。

４．プレミックス中に使用する各原料の融点、またはプレミックス中に使用す

る配合物の軟化点が４５℃を越え、好ましくは５０℃以上である請求項１～３のいずれかに記載の方法。

５．プレミックス中に使用する配合物および原料の８０重量%、好ましくは少なくとも８５重量%、より好ましくは少なくとも９０重量%が、工程条件下に達する温度よりもはるかに高い軟化点または融点を有する請求項１～４のいずれかに記載の方法。

６．圧縮工程は、融点または軟化点よりも少々高い温度、例えば２～２０℃高い温度で行う請求項１～５のいずれかに記載の方法。

７．３０℃の水１１当たり結合剤８ｇの濃度で９０秒でほぼ完全に溶解する結合剤１種またはそれ以上を使用する請求項１～６のいずれかに記載の方法。

８．１３０℃まで、好ましくは１００℃まで、より好ましくは９０℃までの温度で完全にメルトとして存在する結合剤を使用する請求項１～７のいずれかに記載の方法。

９．固体流動性プレミックスを調製するために、まず、室温ないしやや高い温度であって、好ましくは結合剤の融点または融点範囲よりも低い温度、とりわけ３５℃までの温度で、標準的なミキサーおよび／または造粒機内に固体を導入する請求項１～８のいずれかに記載の方法。

１０．結合剤は、固体混合物中で凝固したメルトとして、または粉末として均一に分布するような条件下に、プレミックスに最後の成分として加える請求項１～９のいずれかに記載の方法。

１１．結合剤は、それがメルトとして存在する温度で加え、メルト温度は、好ましくは６０～１５０℃、特に８０～１２０℃である請求項１～１０のいずれかに記載の方法。

１２．混合工程は、メルトが凝固し、プレミックスが固体流動性形態となるまで続ける請求項１～１１のいずれかに記載の方法。

１３．プレミックス中の結合剤含量は、プレミックスに対して少なくとも２重量%で１５重量%未満、好ましくは１０重量%未満、より好ましくは３～６重量%である請求項１～１２のいずれかに記載の方法。

１４．実際の造粒、圧縮、製錠、ペレット化または押出における工程温度は、結合剤の融点よりも高い温度、または結合剤がメルトとなるよりも高い温度であり、該工程温度は好ましくは、結合剤の融点または融点範囲よりも２０℃以上高くはない請求項１～１３のいずれかに記載の方法。

１５．結合剤の融点または融点範囲は１５０℃まで、好ましくは１００℃まで、より好ましくは７５℃までであり、工程温度は結合剤の融点または融点範囲上限よりも１０℃、とりわけ５℃まで高い請求項１～１４のいずれかに記載の方法。

１６．プレミックスの混合／ホモジナイズと、造形との間、すなわち圧縮域の温度に曝す時間は、１０秒間ないし５分間、とりわけ３分間までである請求項１～１５のいずれかに記載の方法。

１７．製法を押出によって行い、この目的にためにプレミックスを圧力下に圧縮し、可塑化し、押出機ヘッドの多孔ダイから押出してストランド形態とし、最後に回転刃によって切断して、好ましくは実質的に球形（ビーズ様）または円柱形の顆粒とし、押出機スクリュー、プレディストリビューターおよび押出ダイの移行部分の温度は、結合剤の融点または結合剤の融点範囲の上限に少なくとも達するように、好ましくはそれを越えるように調節する請求項１～１６のいずれかに記載の方法。

１８．押出機の圧縮域の温度曝露時間は、２分間まで、とりわけ３０秒間ないし１分間である請求項１７記載の方法。

１９．圧縮した材料は、製造装置から吐出直後は、８０℃以下、好ましくは３５～７５℃、より好ましくは４０～７０℃、例えば６０℃までの温度である請求項１～１８のいずれかに記載の方法。

２０．比較的粒子サイズ分布が広く、微粒子成分含量の比較的高いプレミックスを、粒子サイズ分布が比較的狭く、微粉含量の比較的少ない最終生成物に変換する請求項１～１９のいずれかに記載の方法。

２１．請求項１～２０のいずれかに記載の方法によって製造した、嵩密度が６００ｇ／ｌを越える粒状洗剤または該洗剤用の配合物もしくは処理原料であって、該方法は、室温で１バールの圧力下に固体であり、融点または軟化点が４５℃

以上である各原料および／または配合物と、場合により、４５℃未満で１バールの圧力下に液体であるノニオン性界面活性剤１０重量％までとを含有する固体プレミックスを、そのための配合物および／または原料から最初に調製し、次いで４５℃以上の温度で圧縮力を適用して粒子に変換し、その粒子を場合により更に加工または配合することを含んで成り、プレミックスは実質的に水不含有であり、

洗剤または該洗剤用の配合物もしくは処理原料は、アニオン性界面活性剤を１種またはそれ以上、並びに４５℃未満で１バールの圧力下には固体であるが加工条件下にはメルトとして存在する原料または配合物（プレミックスから導入される）を少なくとも１種含有し（該メルトは、洗剤製造時には滑剤として、および固体の洗剤配合物または原料の接着剤として作用し、洗剤を水性液体に溶解する際には崩壊作用を示す、多機能の水溶性結合剤として機能する）、セルが固体で満たされた蜂の巣様の構造を有することを特徴とする洗剤または該洗剤用の配合物もしくは処理原料。

２２．少なくとも８０重量％が、配合物および／または処理原料から成り、とりわけ少なくとも８０重量％が、本発明に従って製造した基本顆粒または基本押出物から成り、他の成分も、好ましくは請求項１～２０のいずれかに記載の方法によって製造した配合物または処理原料である請求項２１記載の粒状または押出洗剤。

２３．メルト凝集によって適所に結合した、ダスト様、または少なくとも微粒子の成分（いわゆる微細成分）の形態の外殻を有する請求項２１または２２記載の洗剤。

２４．請求項１～２０のいずれかに記載の方法によって製造した造形洗剤、とりわけ洗剤錠であって、

該方法は、室温で１バールの圧力下に固体であり、融点または軟化点が４５℃以上である各原料および／または配合物と、場合により、４５℃未満で１バールの圧力下に液体であるノニオン性界面活性剤１０重量％までとを含有する固体プレミックスを、そのための配合物および／または原料から最初に調製し、次いで４５℃以上の温度で圧縮力を適用して粒子に変換し、その粒子を場合により更に

加工または配合することを含んで成り、プレミックスは実質的に水不含有であり、

錠剤は、アニオン性界面活性剤を１種またはそれ以上、並びに４５℃未満で１バールの圧力下には固体であるが加工条件下にはメルトとして存在する原料または配合物（プレミックスから導入される）を少なくとも１種含有し（該メルトは、洗剤製造時には滑剤として、および固体の洗剤配合物または原料の接着剤として作用し、洗剤を水性溶液に溶解する際には崩壊作用を示す、多機能の水溶性結合剤として機能する）、１種またはそれ以上の崩壊剤を含有することを特徴とする洗剤。